

(日本教育学会中国地区研究活動)

教員養成改革に対応する教職科目担当授業への取り組み
——若い教育研究者の挑戦と交流——

日時：2014年7月26日(土) 午後1時30分～午後4時30分

場所：広島大学教育学研究科 C203 教室

基調講演：山崎 準二(学習院大学)「教員養成改革と若い教育研究者に期待すること」(仮)

実践報告1：塩津 英樹(島根大学)

実践報告2：熊井 将太(山口大学)

実践報告3：境 愛一郎(広島大学大学院・院生)

中居 舞子(広島大学大学院・院生)

指定討論：藤原 颯(福山市立大学)

司 会：森下真実(広島都市学園大学)・山口裕毅(広島大学)

企画趣旨

近年、教員養成改革が進められている。中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」(平成18年7月)では、教職課程の質的水準の向上が提唱された。同答申により、教員養成における「学びの軌跡の集大成」となる「教職実践演習」が新設され、平成25年度から実施されている。また、同じく中央教育審議会答申「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(平成24年8月)では、「学び続ける教員像」の確立が必要とされた。このように、教員像・教職科目の中身ともに再編が進められている。だが、こうした改革が実現しうるか否かは個々の大学・大学教員の改善のための努力と工夫にかかっている。

目まぐるしく進む改革動向の中で、個々の大学教員は手探りで日々の授業に臨んでいるのではないか。問題を共有し、次の方向性を打ち出す場が必要ではなかろうか。そこで本研究交流会は以下の問いを掲げ、議論のきっかけとしたい。第一に、近年の教員養成改革の動向に対応するために必要な授業改善はいかなるものか。そして、教育研究者としての研究活動と担当授業科目との関連はいかなるものか。そもそも教職科目の授業はいかなる指針の下で改善されるべきか。第二に、本研究交流会はこうした教職科目の授業改善を行う教育研究者の在り方を問いたい。異なる経験年数、異なる勤務場所や条件のなか、それぞれの教育研究者はいかに成長し、変容していくのか。

研究会の当日は、教師教育の専門家を講師に招いて近年の改革動向についてご提言をいただくとともに、大学就職後2～3年の若い教育研究者に授業改善の挑戦の試みについて発表して頂く予定である。また、広島大学教職課程担当教員養成プログラムの履修生からも大学院生の立場から報告して頂く予定である。フロアーの皆さまからも情報や意見を頂戴し、議論を深め、今後の方向性を探りたい。